

平成26年4月23日

フィリピン・ミンダナオ島バンサモロ地域の 自治政府人材育成（公務員候補者研修）の実施について

広島大学では、広島県とともに、フィリピン・ミンダナオ島のバンサモロ地域で公務員として働くことを希望する若者を広島に招聘し、社会科学部において研修を与える事業を開始します。

本事業は、平成25年度 JICA の「草の根技術協力事業」の一環として実施するもので、現地でのセミナーを経て意欲の高い若者を選抜し、2016年3月までの約2年間に3回、合計30人の研修を予定。初回は5月中旬から4週間、8人に実施します。

40年以上にわたってイスラム武装勢力が独立や自治を求めて政府と紛争状態にあったフィリピン南部のミンダナオ島では、3月27日に、新たな自治政府の設立などを含む包括和平合意に調印し、平和に向かって大きな一歩を踏み出しました。ミンダナオ和平には、日本政府が休戦の国際監視チームに加わるなど、積極的にかかわってきた経緯がありますが、広島大学も、平和構築連携融合事業（※注）等を通じて2008年ごろから和平への貢献に務めてきました。

これまでの広島大学のミンダナオ和平への関与の経験を踏まえ、総合大学としての教育能力、研究能力を駆使して、ミンダナオのバンサモロ地域に平和が定着するよう、現地のニーズを汲み取りつつ、住民が平和の意味を実感できる効率的な政府を実務的に運営できる人材の養成を目指します。

本事業は、広島県と共同で実施するほか、国連訓練調査研究所広島事務所の協力も得るなど、ヒロシマが一体となって平和構築事業を実施する先駆けとなるものでもあります。

（※注）広島大学平和構築連携融合事業

ヒロシマという地のもつ歴史的な意義を自覚し、平和への強い目的意識を掲げつつ、総合科学としての平和構築学の確立を目指すとともに、ヒロシマが理念としての平和のみならず、より実践的な平和の拠点となるように活動する事業

【お問い合わせ先】

社会科学部

吉田 修

TEL:082-424-7258

FAX:082-424-7212